

# 学校だより 銀杏

本校ホームページ [https:// www.fureai-cloud.jp/ine4j/](https://www.fureai-cloud.jp/ine4j/)に「カラー版」を掲載しています

## 今月号の内容

- 副校長巻頭言 ○教科紹介(音楽科)
- 道徳地区公開講座
- 部活動紹介(吹奏楽部・美術)
- マラソン大会 ○行事予定



## 差別やいじめについて

副校長 鈴木 聡

マーティン・ルーサー・キング牧師の名前を聞いたことがあるでしょうか。彼はアメリカの黒人差別をなくすための公民権運動の指導者で、1963年8月28日に行われたワシントン大行進において「I have a Dream」(私には夢がある)という有名な演説を行いました。

この運動が契機となって黒人差別を禁じた公民権法が制定され、彼はノーベル平和賞を受賞します。今年は演説からちょうど50周年目に当たりワシントンで記念イベントが開かれました。彼が若かった頃、ある日、黒人女性がバスの中で白人専用席を避けて座ったにもかかわらず、後から乗って来た白人に席を譲るよう運転手から命令されます。これを拒んだため彼女は逮捕されてしまいます。この事件をきっかけに差別撤廃の運動が盛り上がりました。この運動をリードしたのがキング牧師だったのです。キング牧師は様々な弾圧や暴力にさらされながらも、不屈の精神で運動を盛り上げていきました。彼は39歳の若さで暗殺されてしまいますが、彼の魂は滅ぶことなく今でも燦然とアメリカ社会に輝いています。その演説の一部を紹介します。味わい深い文章です。ぜひ読んでみてください。

I have a dream that one day on the red hills of Georgia the sons of former slaves and the sons of former slave owners will be able to sit down together at the table of brotherhood.  
私には夢がある、いつの日か、ジョージアの赤い丘で、奴隷の子孫たちと奴隷所有者の子孫たちが、いっしょに仲間として同じテーブルにつく日が来ることを。

I have a dream that my four little children will one day live in nation where they will not be judged by the color of their skin but by the content of their character.  
私には夢がある、私の4人の子どもが、いつの日か、肌の色ではなく人格で評価される国に住めるようになることを。

このようにアメリカの黒人は肌の色が違うというだけで理不尽な扱いを受けていました。周囲と様子が違ふとそれを排斥しようとする性は人間特有のものなのではないでしょうか。残念でなりません。似たようなことは我が国でも見られます。今年の夏は猛暑のため、男性用の日傘が大いに売れたそうですが、哲学者の森岡正博さんは、さすことができずにいる人が多かったと言っています。これは周囲がしていないことはできない、自分だけ浮くのは嫌だ、何を言われるかわからないという心理が働くからで、日本社会の息苦しさを感じます。実際、インターネットでも日傘は女性のものという意見が出ているそうです。こうした少数者への中傷や誹謗が差別やいじめを生むもとになります。日本で真の個性が育たないのもここに一つの原因があると思います。私は一人一人がこうした意識を排除し、お互いに認め合い、個性や人権を心から尊重できる人に育ってもらいたいと願っています。そして誰もが安心して暮らせる世界が来ることを祈っています。

## 道徳授業地区公開講座

11月6日(水)に道徳授業地区公開講座を開催しました。今年度の道徳授業は全校テーマを「いじめ」と設定し、各学年で設定した題材をもとに授業を行いました。以下、各学年の授業詳細です。



### ◎1年生

・題材名: 「魚の涙」(C(11)公正、公平、社会正義)

・ねらい: 魚類学者でタレントのさかなクンが著した文章を通して、いじめが起こらない社会をつくるために大切なことについて考えさせ、差別や偏見のない社会を実現していく実践意欲と態度を育てる。

・設定理由: よりよい集団を実現するためには、好き嫌いの感情に流されず他者に対して偏見をもたないよう努めることや、自分と同様に他者を尊重し、誰に対しても分け隔てなく公平に接し続けようとするのが大切である。同時に、集団内のいじめや不正に対して、「見て見ぬふりをする」、「避けて通る」といった態度ではなく、「いじめや不正な言動を許さない」たくましい態度がとれることが重要であることに、考えや意見を伝え合う活動を通じて気づかせたいという思いで本題材を設定した。

### ◎2年生

・題材名: 「公正、公平な態度で、正義の実現を!」(内容項目C(11)公正、公平、社会主義)

・ねらい: 江戸時代、会津藩の藩士の子弟が学んだ学校「日新館」へ入学する前の子供たちが身につけるべき人としての心構え「什の掟」を通して、いじめなどの身近な偏見や差別に気づき、不正な行為を絶対に許さないという態度を育てる。

・設定理由: 今回のテーマ「いじめ」に対しては、これまで道徳の授業だけでなく、生徒会本部役員が企画する「いじめゼロ運動」にも取り組んできたため、意識は高くもっている。本題材では現代においても許されない「いじめ」が江戸時代の学校においても「ならぬもの」として許されない行為であったことを知ることができる。また、どの時代においても、より良い社会を実現するためには「いじめ」を絶対に許さない態度と、正義を愛する心が不可欠であることを改めて気づかせ、その態度を育てたいという思いで本題材を設定した。

### ◎3年生

・題材名: 「アイツとオレ」(内容項目B(9)相互理解、寛容)

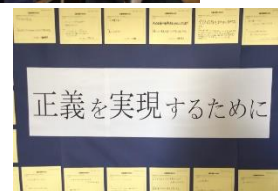
・ねらい: 対照的な性格の二人の生徒の対話を描いた漫画を通して、人と分かり合うことはなぜ必要なのかを考えさせ、他者と相互に理解し合い、高め合おうとする心情を育てる。

・設定理由: 生徒たちは学校生活の中で、互いの違いを感じながら生活している。しかし、それを認め合って、互いに高め合うには、まだ難しい面がある。否定されることを恐れて、自分の考えや意見を相手に伝えられなかったり、反対に、自分から発信はできても、自分とは異なる相手の意見を認めることができず、敵対したりしてしまうこともある。そうすると、相手を排除するなど、いじめにつながることもある。そこで自分を高めるうえでも、また、いじめを起こさないためにも、互いを理解し、認め合う心が大切なことに気づかせ、相手と共に成長させていくものとして、本題材を主題として設定した。

どの学年の生徒たちも、題材を自分たちのこととしてとらえ、いじめをなくすにはどうすればよいか、意見を出し合って考える様子が見られました。また、2学年では生徒一人ひとりがいじめ根絶におけた標語を作成し、学年のフロアに掲示しています。授業だけで完結するのではなく、日々の学校生活でも実践できています。

また、授業後に開かれた全体会には保護者の皆様にも参加していただき、意見交換をしました。保護者、教職員、それぞれの立場からいじめの根絶、生徒たちの健全な育成に向けて何ができるか、意見を出し合い協議することができました。当日参加して下さった保護者の皆様、ありがとうございました。

(担当:三浦 航)



## 教科紹介（音楽科）

（１年）日本の歌や楽器について学習した後、３学期に行う箏についての歴史や構造、奏法等を知り、箏曲の鑑賞を行いました。３学期には、箏の実技授業を行います。小学校でやった「さくら」を合奏できるように、いろいろな奏法を練習する予定です。

（２年）イタリアのカンツォーネを原語で歌いました。イタリア語は巻き舌等を使う発音もあり、難しいですが、楽しそうに練習をしていました。

夏休みの課題の「My favorite song」のスライドを見ながら、クラスメイトの好きな曲を鑑賞しています。いろいろな曲を聴く中で、自分の音楽の嗜好の幅を広げるきっかけにできればと思います。３学期は、昨年に引き続き箏の実技授業を行います。今年度は、４～５人のグループで、「さくら」の編曲をし、発表会をする予定です。複数の奏法を使い、個性あふれる編曲を目指します。



（３年）西洋音楽史（後編）を学習しました。ロマン派から現代までの音楽史を学習し、現代の多種多様な音楽の原点をたどりました。また三味線の歴史や構造、奏法について学習し、外部講師の先生を招いて、実技の授業も行いました。３本の弦を左手で押さえつつ、右手にバチをもって弾くことは難しかったようですが、楽しそうに弾いていました。３学期は、卒業式に向けての歌の練習と、著作権やポピュラー音楽について学習する予定です。



（音楽担当：宮下加代子）

## 部活動紹介（吹奏楽部・美術部）

### 吹奏楽部



吹奏楽部は現在、２年生９名、１年生１０名の計１９名で活動しています。週４日、２名の外部講師の先生にご協力をいただき、基礎練習を徹底しながらも、音楽記号の意味や、曲が伝える情景を想像しながら演奏することなど、様々な演奏技術を学んでいます。今年度は、新入生歓迎会、校内サマーコンサート、押立地区運動会、きらきらフェスタ点灯式という場で、演奏機会を設けることができました。今後は、１２月１０日に校内ウィンターコンサートの演奏会を控えています。毎回、季節や観客の皆さんのことを考えて選曲しています。多くの方に、合奏を楽しみにいらしていただきたいです。（顧問：上西礼乃／山下正美／大島洋生）



### 美術部



美術部は、３年生１５名が引退し、現在１年生６名、２年生１１名の計１７名で活動しています。各自が自分の表したいものを決めて、イラストやペーパークラフトなど自分のペースで仲間と共に楽しく制作に取り組んでいます。粘土で食べ物を作る模刻では、ミニチュアのパンを本物そっくり細部までこだわって何種類も制作したり、ショートケーキやドーナツを本物のように美味しく見えるように一生懸命作っていました。これから美術室など校内に展示する予定ですので是非ご覧ください。（顧問：古澤有紀子）





## マラソン大会



11月1日に稲城緑地公園とその周辺のサイクリングロードをお借りし、マラソン大会を実施しました。今年度のコースは昨年度と同じ、男女ともに2kmでした。マラソン大会当日より、1か月ほど前から体育の授業で長距離走に取り組み、それぞれの目標を決め、本番に臨みました。長距離走というと、「疲れる」「つらいからやりたくない」など後ろ向きなイメージを持っている生徒が多いですが、生徒たちは一生懸命に練習から本番まで取り組みました。中には、自主練習といってマラソン大会に向けて学校が終わった後に走る生徒もいたようです。



当日のレースは学年ごとに行ったのではなく、学年関係なく男女別で2チームに分けて行いました。5月に行われた体育大会とは異なり、学年を超えて互いに競い合い高めることができることもマラソン大会の醍醐味なのではないかと考えています。また、競い合いながらも、互いに励ましあい、応援しあいながら行事を進めることができました。レース中には、ゴール付近で「あと少しだから頑張れ!」「もうちょっと!」「いけー!」といった温かい声援を学年関係なく送っている四中生の様子が印象的でした。



稲城第四中学校は生徒主体となって行事を進めることが伝統となっています。今回のマラソン大会では、体育委員会の生徒が中心となり、行事の準備や片づけを行ってくれました。放課後、学校に残り持っていくものの準備・確認を行ったり、当日の係分担の仕事をこなしたり、後片付けを行ったりしてくれました。体育委員の生徒の頑張りのもあり、とても良いマラソン大会になったと感じています。

長距離走やマラソンをはじめ、運動に限らず、何事にも向き、不向きがあるものです。しかし、今回のマラソン大会のように、何事にも「前向き」に取り組む姿勢を学ぶことができたのではないかと考えています。学んだことを日々に生かし、様々なことに挑戦してほしいと感じています。当日は、多くのPTA役員の方々をはじめとし、多くの保護者の方にご協力・ご声援をいただいたことに感謝申し上げます。



(担当:宗田 龍生)

## 12月の主な行事予定

| 日  | 曜 | 主 な 行 事     | 日  | 曜 | 主 な 行 事      |
|----|---|-------------|----|---|--------------|
| 2  | 月 | 生徒理解週間始     | 15 | 日 | ESAT-J (予備日) |
| 7  | 土 | ユニセフクリーン大作戦 | 18 | 水 | 野沢保護者説明会 (I) |
| 9  | 月 | 生徒理解週間終     | 20 | 金 | 稲城二中研究報告会    |
| 10 | 火 | 安全指導        | 24 | 火 | 全校美化活動       |
| 11 | 水 | 野沢宿泊学習前健康相談 | 25 | 水 | 終業式          |
| 13 | 金 | 避難訓練        | 26 | 木 | 冬季休業日始       |
| 14 | 土 | 英語スピーチコンテスト |    |   |              |

